

あ い さ つ

学会長挨拶

高知女子大学看護学会長

和 井 兼 尾

学会も今回で14回になりました。毎年、お暑い中を、また何かと計画もあることと存じますが、特に今回は会場にあふれるぐらい多数参加されまして、心強く存じております。

学会をここまで継続、発展させていただきましたことは、運営委員の皆さん方のご尽力あつてのことと心から敬意を表しております。今回は、研究発表とシンポジウムの年でありまして、研究発表の一部についてこのあとで、続いて、総会と親睦会、明日午前中研究発表、午後は昨年来のメインテーマとしてきました発達についてのシンポジウムです。興味ある問題なので期待しております。シンポジストの皆さんから問題提起していただき、フロアの皆さんからも活発に意見を出していただき、これからの研究に示唆を与えられることを期待します。

今回は、研究発表の演題が11だと思いますが、次々回にはもう2、3題あってもよいのでは、と考えられます。16回学会をめざして研究をまとめてもらいたいと思います。

さて、私はこの席で昨年来、看護界におこりましたうれしい報告をいたしまして、皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。既に大方の皆様はご存知のこととは思いますが、ひとつは、昭和56年4年制看護大学協議会の諸先生方のご尽力により発足させていただいた日本看護学々が、学会として日本学術会議に登録されたことです。このことは、日本の看護史の中で画期的なことですし、私はあえて、この席でご披露し、皆様と共に喜びたいと考えた次第です。と申しますのは、40年近く前、女子大に看護学科を設置する準備をすすめていたとき、看護が大学の専門課程として認定されるだろうか、文部省の担当事務官との間で論議をしたことを思いおこし、40年という長い歳月は要しましたが、隔世の感がいたし、強い感銘を受けました。とにかく、このためにご尽力いただきました諸先生方、また会員の皆様の研究が評価されたものと受けとめております。これは看護がひとつの学問領域として認められたことを意味していると思います。これからは皆さん方の努力によって、この学問領域を充実、発展させ、更に実践活動の場においても評価される方向にすすめられることを願う次第であります。

もうひとつのニュースは、この4月聖路加看護大学に日本で最初の看護学博士課程が創設されたことです。看護学の研究・体系化ができる道が開かれたといえましょう。将来の発展を祈願致します。

それにしましても、女子大学は、4年制看護大学として日本で最初にでき、既に30数年になりますのに、マスターコースもできないということは寂しいことです。毎年卒業生の何名かは、国内

外の大学院に進学しております。貧乏県の公立女子大学のわびしさを感じます。このことについては、学内でも努力して下さってることですし、学会としましては側面から積極的な協力が必要でございましょう。また、看護学科の教育に関心を寄せて下さる外部の方々の御協力を得て、充実、発展させていただくことを強く願って、組織造りの準備をしたいと思っております。女子大学看護学科に研究課程の設置を最も強く要望するのは、他ならぬこの学会員ですものね。

では、有意義にこの学会が進められることを期待し、開会のあいさつを終わります。